

# 百十周年を迎えた保育園の草分け

## 「二葉保育園」

二葉二世紀支援の会事務局長

白梅学園理事 山田 美和子

### 明治の産業革命期に歩みだした二葉保育園

二葉保育園といえば、児童福祉を志す人たちが誰しも「我が国の児童福祉の、あるいは保育園の草分け」として学んでいるところですよ。実際に、多くの保育園・幼稚園関係者が、同園とその先導者たちに感動し、道しるべを得てきました。

また、多くの人や学生たちが実習あるいはボランティアとして訪れているところですよ。

保母養成のテキストには次のように述べられています。

「幼稚園という名前ではあるが、貧しい家庭の子どもを対象とした保育所的性格をもつものとして、「二葉幼稚園」が明治33年、野口幽香（1866～1950）と森島峰（1868～？）によって開設された。彼女たちは、有産・特権階級の幼児を主として保育する附属幼稚園に努めていたが、通勤の途上で見る貧しい家庭の子どもたちと園児たちとの違いの大きさに驚き、疑問をもち、彼らのための幼稚園の開設を決意した。」とあります。

託児所としては、新潟の赤沢鍾美氏あかざわかねみが明治23年に「静修学校」付設として作られた託児所が最初のものとき

## 二葉保育園のあゆみ



- 明治33 (1900) 野口幽香、森島 (齋藤) 峰が私立二葉幼稚園を東京麹町に設立。
- 大正5 (1916) 二葉保育園に改称。新宿に旭町分園 (二葉くすのき保育園の前身) 開く (園児100名)。
- 昭和10 (1935) 財団法人となる。理事長に徳永恕就任。深川海辺町母子寮を設置 (65世帯)。
- 昭和20 (1945) 東京大空襲で深川母の家を焼失し21人死亡。本園も被災し旭町分園のみ残る。
- 昭和21 (1946) 旭町分園中心に事業を再開し、乳児部も開始 (二葉乳児院の前身)。
- 昭和22 (1947) 調布市上石原に分園設立。母子寮と養護部 (二葉学園の前身) を置く。
- 昭和25 (1950) 南元本園再開 (保育園43人、乳児院15人、母子寮10世帯)。
- 昭和26 (1951) 上石原分園焼失、再建 (母子寮をやめ、養護部50人)。
- 昭和31 (1956) 南元本園に母子授産の家開設。38年廃止。
- 昭和39 (1964) 社会福祉法人になる。
- 昭和43 (1968) 上石原分園を改築し、養護部を二葉学園と改称。
- 昭和52 (1977) 旭町分園を調布市国領町に移転し、二葉くすのき保育園として発足 (園児100人)。
- 昭和56 (1981) グループホームの試行を始める。
- 昭和61 (1986) 二葉乳児院養育家庭センター開設。
- 平成12 (2000) 二葉乳児院で新宿区の子どもショートステイ事業を開始。
- 平成15 (2003) 二葉学園で狛江市の子どもショートステイ事業を開始。地域小規模児童養護施設開始 (定員6名)。二葉乳児院で新宿区の地域子育て支援センター事業を開始。
- 平成22 (2010) 二葉むさしが丘学園、東京都より移譲し運営開始。

れていますが、東京麹町に開設された二葉幼稚園が保育時間や保育内容などからして、保育所開拓の先駆者的役割を果たしてきました。(注1)

大正5年に二葉保育園に改称し、明治・大正・昭和・平成とその時代時代に求められる児童福祉の課題を、キリストの愛の精神に基づきながら受け止め、110年を先導的に歩んできているのです。(別表)

二葉保育園の歴史については別表の「あゆみ」に委ね、今回は、私との関わりをご紹介いたします。

### 創設期の全国保母会の活動を支えた二葉保育園

私が初めて社会福祉法人・二葉保育園 (以下二葉保育園) を訪れたのは、昭和34年9月の伊勢湾台風の救

援活動の物資や義捐金を届けに伺ったときでした。

伊勢湾台風で被害を受けた、愛知・三重・岐阜の保育園や子ども・家族たちを支援する取組みが、全社協保母会（当時、全国社会福祉協議会保育部会保母会・略称 全社協保母会、現・全国保育士会）の呼びかけでなされており、私が勤務していた保育園でも取組み、保育が終わった夕方から、主任保母のAさんのお供で新宿・旭町にある二葉保育園に再三出かけ、救援物資の整理等に当っておりました。

当時、旭町の二葉保育園の主任保母であった梅森幾美先生が、東京の保母会と全国の保母会の代表の任（全社協保母会初代委員長）に当たられていらつしやいましたので、旭町の二葉保育園が活動の本部となっていたのです。

夜遅くまで活動の整理に当たる私たちを、梅森委員長と理事長の徳永恕先生がいつも一緒に活動なされ、時には手作りのカレーライスなどで励まして下さいました。

そのような活動から、梅森先生や梅森先生のお姉さまの徳永先生に、身近に接する機会に恵まれ、このご縁から、全社協保母会の事務局の仕事に当ることになったのです。

昭和31年に全国組織として結成を見た保母会は、子どもたちや保母たちの処遇改善を求めて、国の予算編

成に向けての運動をすすめておりました。

「童謡デモ」や雨の中をこうもりをさして童謡をうたつての「こうもりデモ」などとして歴史的にも語りつがれておりますが、当時は多くの保育園は未整備な保育条件にありましたので課題は山積していました。日中は限られた人数で保育を行い、保育の傍ら互いにカバーしながら保母会活動をするのは大変なことであつたと思います。

私は、日々の仕事を全国社会福祉協議会で行いながら、打ち合わせが必要な時は、保育をしておられる梅森先生を訪ね、足しげく旭町の二葉保育園に通う生活を送ることになりました。打ち合わせは、徳永先生の執務室兼居室（ベッドが置かれていました）で行いましたが、徳永・梅森両先生のお人柄や児童福祉に対する熱い情熱に触れ、学ぶことが多くありました。

「子どもたちに少しでも良い保育をしたい」という素朴な願いから生まれた保母の繋がりでしたが、当時保母会に対する福祉関係や社会の目は厳しく、当然二葉保育園に対する風当たりも厳しいものでありました。全国の代表であつた梅森先生を支える徳永先生と職員のみなさんの存在があればこそ実現したことと思いません。

全社協保母会の10周年の時、顧問となられていた梅森先生が、インタビューで次のように述べていらつしや

います。

「いつもアカだといわれて、保母会の仕事をするよりも、アカじゃないんだ、保母はただ横のつながりがほしい。そして身分保障を良くしたいんです。と言論のたたかいといましようか、それに追われておりました。」(注<sup>2</sup>)

ここでは、保母会活動の面から二葉保育園が果たしてきた役割を紹介致しました。しかし、二葉保育園の活動と役割は、自らの園にのみ限られたものではありません。さらに同園は、常に我が国の児童福祉全般の向上を願って、乳児院、児童養護施設関係でも、全国組織の指導的役割を担い、日常の実践に努力しながら、社会福祉法人として数多くの社会的貢献を積み重ねてきています。

## 二葉保育園を支えてきた後援会活動

最近、東日本大震災から、「絆」や「ご縁」、「支えあい」など、人々の交わりの大切さが認識されておりますが、二葉保育園には、常に多くの人々に支えられてきた歴史があります。個人であったり後援会としてであったり、いろいろ変遷はありますが、なかには親・子・孫世代にわたって支援しておられる方もいらっしやるということです。

最近では、二葉乳児院の全面改築を控えての後援会「二葉100年支援の会」が発足し、改築が済んだ2005年12月に解散されました。しかし、その後、解散を惜しむ方々の声に押されて、2008年に「二葉二世紀支援の会(会長・梅森公代前理事長)」として再発足しております。

いま、児童養護施設・二葉学園の改築という大きな課題を抱えており、財政的支援が緊急の課題となっています。私は「二葉保育園の理念に基づく伝統ある実践を支援することにより、あまねく子ども・家族・地域を支える力になり続けたい」という願いと、次世代への橋渡しをしたいという気持ちから、微力ですが事務局長という役割をお引き受けし支援の輪の広がりを願っているところです。

(注1) 新保母養成講座「保育理論」全国社会福祉協議会

(注2) 「保母会だより」縮刷版 全社協保母会

(別表) 社会福祉法人「二葉保育園しおり」